



油絵を始めたい人や、油絵を始めたばかりの人向けに、疑問に回答！また、画材の説明や、技法について記載しました。

[コースのタイトル]

# 油絵の画材、技 法解説ブック

# 目次

## ①挨拶 前書き

### ①油絵ってどんな油絵の具

### ②油絵はどんな人が向いている？

### ③油絵は自宅でもできる？

### ④油絵を描く時の服装は？

### ⑤油絵セットのおすすめは？

### ⑥油絵の画材はどこで買うと良い？

### ⑦油絵の主な道具の説明

### ⑧油絵であると便利なモノ

### ⑨油絵の基本的な描いて行き方

### ⑩油絵の技法 12 選 解説

### ⑪最後に

## ①ごあいさつ（前書き）



こんにちは！

絵描きのふじゆうです。

この書籍を手にとっていただき、ありがとうございます。

この書籍では、油絵を始めたい人向けに

初歩的なことですが意外に解らないような内容を詰めました。

なんとなく難しい印象がある油絵ですが、

描き方を知れば、そんなに難しい物ではありません。

また、デジタル化が進む世の中で、

あえて油絵を描いてみたいと思うあなたは、

貴重な存在で、私としても仲間が増えたような気持ちで嬉しいです。

油絵を描く人は、年々減少傾向にあります、  
油絵を教えている人間として、  
油絵の魅力を世の中に伝えて、  
日本のアート界を盛り上げて行けたらと考えています。

では、前置きはこれぐらいにして、  
ごゆっくりお読みください。  
あんまり長いと大変だと思うので、  
要点だけ抑えてシンプル構成にしています。

著) ふじゆう



# ①油絵ってどんな絵の具



## 1、油絵の歴史

油絵の具と言えば、歴史のかなり長い絵の具です。

どれくらい前からあるかと言うと、

約 600 年前からあると言われていています。

油絵の技法を確立したのは、フランドルの画家ヤン・ファン・エイクと言われていています。

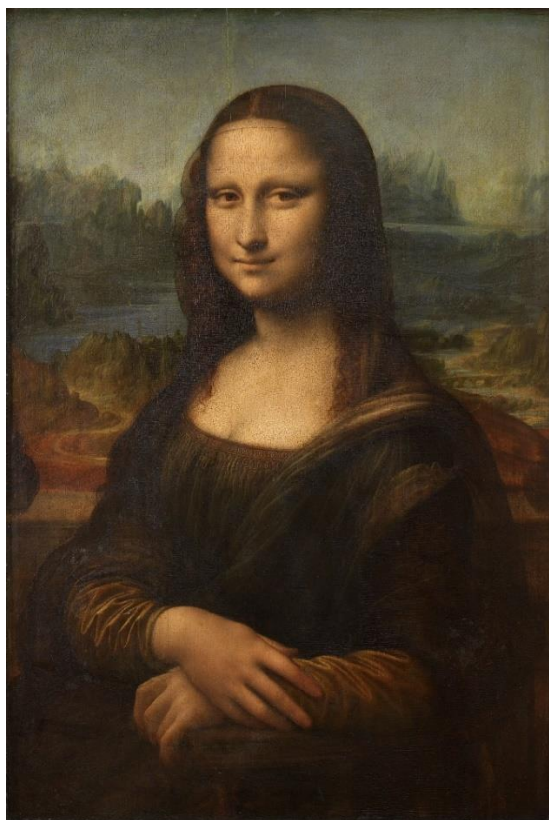




ヤン・ファン・エイクの絵は、今も残されており、  
「アルノルフィーニ夫妻像」と言う絵がイギリスのナショナル  
ギャラリーに所蔵されています。

600 年も前にこんな絵が描かれていたのかと言うのが驚きですよね。

また、名画と呼ばれる多くもこの油絵で描かれてきました。誰もの知っている絵で言うとレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」は、知らない人は居ませんよね。



その他、レンブラント、ゴッホ、モネなど多くの画家が使ってきた絵の具でもあります。

そんな、油絵でいまも絵を描けるなんて何か感動しませんか？



## 2、油絵の特徴①乾燥が遅い



油絵の具の大きな特徴としては、乾燥が遅いことです。  
どれくらい遅いかと言うと、  
手で触って付かなくなるまでに1週間もかかります。  
他の絵の具と比べるとかなり遅いですよね。  
しかも厚塗りした場合の完全乾燥には約半年掛かります。  
薄塗りの場合でも3か月ほどです。

### 3、油絵の特徴②水を使わない



次に油絵の特徴としては、水を使わないことです。

油絵なので当然なんですが、絵の具を薄めるときは、ペインティングオイルと呼ばれるオイルを使用します。

また勘違いしている人が多いんですが、油絵は蒸発して乾燥するわけではありません。

正確には蒸発して固まるオイルもあるのですが、

基本的には乾性油と呼ばれるオイルが空気中の酸素と酸化することによって固まります。

なので、乾燥が遅いんですね。

ドライヤーなどで、早く乾燥させることはできません。

それと、化学反応で固まるので気温が高い方が固まるのが早いです。

逆に冬の寒い時期はなかなか固まりません。

他にも油絵の具の特徴はたくさんあるのですが、大きな特徴はこんなところですよ。

## ② 油絵はどんな人が向いている？



次に油絵はどんな人に向いているのか？です。

油絵は、乾燥が遅いんですね。

乾燥が遅いということは、早く描いて行くことはできません。

なので、せっかちで作品を早く仕上げたいという人にはあまり向いていません。

逆に、焦らずゆっくり描きたい人には向いていると言えるでしょう。

絵の具の付いた筆を一晩置くぐらいでは、問題ないので、ずぼらな人でも安心です。



### ③油絵は自宅でもできる？



そもそも油絵は、自宅で描けるのか？という疑問がある人も居るかもしれません。

結論から言うと問題なく描けます。

特にしっかりとしたアトリエを用意する必要はありません。

私自身、普通の自分の部屋で描いています。

ただ注意点として、3つほどあります。

1つ目は絵の具の飛び散りです。

賃貸の場合は、床や壁への絵の具の飛び散りは注意が必要です。

注意点2つ目は、匂いです。

油絵は、正直なところ結構臭いです。

結構匂いがこもるので、換気をした方が良いです。

人によっては気分が悪くなるらしいので、注意です。

また、寝室などではあまり描かないほうが良いでしょう。

匂いなどが移って臭くなりますし、睡眠の妨げになります。

一人によるので気にならない人は、特に気にしなくても大丈夫です。

注意点3つ目は、毒性。

油絵の具は、色によって毒性が強いものがあります。

例えば、白のシルバーホワイトなどです。

絵をかきながらお菓子を食べたりするのは、

やめた方が良いです。

また、ペットをかつている人やお子さんが居る人も注意です。

その他の注意点としては、オイルを使うので家事にも気を付けましょう。



## ④油絵を描く時の服装は？



油絵を描く時の服装として一番楽なのは、要らない服を着て描くことです。

相すれば特に汚れを気にしないで描けます。

また、気分を上げたいとか、おしゃれしたいという人には、エプロンをおすすめします。

エプロンを買う時には、注意点がありまして、  
丈が膝より下に来るものが良いです。

なぜかと言うと、椅子に座った時に、ずりあがって膝が観え  
ると、

ストレスになるからです。

購入するときは気を付けてくださいね。

服装については、こちらの記事でも書いています。

<https://aburaenohibi.com/apron>

## ⑤油絵セットのおすすめは？



次に油絵のセットについてです。

油絵を始める時には、セットを買って始める人が多いんじゃないでしょうか。

油絵の具セットを買う時のおすすめは、木箱以外のものです。なぜかと言うと、木箱のものはカッコいいのですが、重いし道具を揃えていくと、直ぐに入りきらなくなり使わなくなります。

そういった点で、あまりおすすめしません。

その他は、あまり似たりよったりなものが多いので、何の油絵の具が入っているかで選べば良いかと思えます。個人的には、クサカベやホルベインの油絵の具が入っているものがおすすめです。

安く入手したい場合は、メルカリなど観て回るのもおすすめです。

油絵セットについて詳しく知りたい方はこちらから

<https://aburaenohibi.com/oil-painting-set>



## ⑥油絵の画材はどこで買うと良い？



油絵の画材を買う時は、ネットショップがおすすめです。

もし、不安がある場合は画材店で観てからネットショップで買うのがおすすめです。

交通費などを考えると、ネットショップで買った方が安いです。

また、キャンバスなど持ち帰るのが大変ですしね。

ネットショップのおすすめとしては、  
世界堂と笹部画材店がおすすめです。

大概のものは、この2店舗で揃います。

私は、いつもお世話になっています。

世界堂は品ぞろえでは国内最大で、一定数買うと送料無料です。

笹部画材店は、とにかく安いです。

送料は掛かってしましますが、それでもかなり安いです。

この2店舗を見比べて購入すると良いでしょう。

# ⑦油絵の主な道具の説明



次に道具の説明です。

最初に最低限必要な道具について説明します。

以下のものがあれば、描いて行くことはできます。

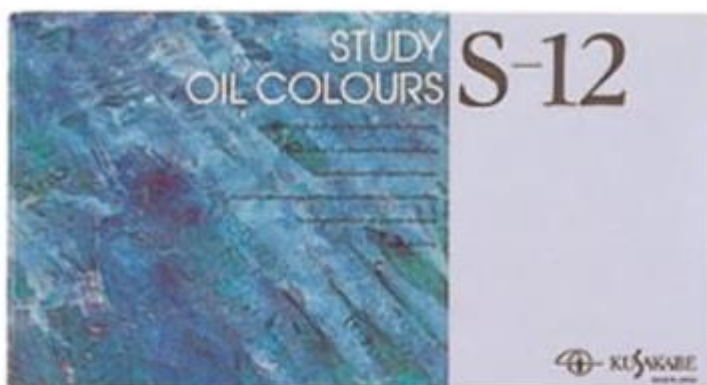
- ・油絵の具
- ・筆
- ・キャンバス
- ・ペインティングオイル
- ・パレット



因みにキャンバス以外は、油絵セットにほぼ入っています。  
こう考えるとセットでなくて、  
バラで揃えても十分描いて行けるのが解りますよね。

1個ずつ説明します。

## ・油絵の具



これがないと始まりません。

一般的に最初は 20ml チューブのものがおすすめです。

白だけ多く使うので、大きめのものだと良いです。

セットのモノでも白だけ多い場合が多いです。

## ・筆



油絵では基本的には豚の筆を使用します。

油絵専用の筆は、他の絵の具のものに比べて柄の部（手に持つ部分）が長いです。

これは、油絵は基本的にイーゼルに立てて描くので、遠くまで届きやすい点と、持ちやすさの面でそういう作りになっています。

また、油絵なので油絵専用の筆を使わないといけないという決まりはありません。

なので、もし何か家に筆があまっているな問題なく使えます。

## ・キャンバス



キャンバスは、油絵を描いて行く支持体のことです。

木の枠に布が張ってある物です。

キャンバスを買う時の注意点としては、

麻のものを使った方が良いということです。

他の種類のキャンバスとして、綿のキャンバスがあるのですが、

綿は伸縮性が高く、油の酸化に弱いのでおすすめしません。



100均のダイソーなどに置いている物は綿なので注意しましょう。

また、キャンバス以外でも木製パネルを使うこともできます。

### ・ペインティングオイル



ペインティングオイルは、絵の具を薄めるためのオイルです。油絵の具は、そのままキャンバスに塗っていくこともできますが、ペインティングオイルで硬さを調整すれば描きやすくなります。



また、強い画面を作る効果もありますので、  
使った方が恩恵は大きいです。

乾燥促進剤も入っている場合が多いので、乾燥も少し早まります。

#### ・パレット



パレットは、油絵の具を一時的に置いて、  
混色したりするのに使います。

一般的に木製のものと、紙製のものがあります。

これは、紙のモノを使っている人が多い印象です。

木製パレットは、何度も使えるのでエコなのですが、  
掃除がめんどくさいです。

一方、紙のものは一番上の紙をめくるような構造になっており、  
ゴミ箱に捨てるだけなので、片付けが楽です。

どちらを使うかは、好みです。

## ⑧油絵であると便利なモノ

他にもあった方が、便利なものはあるんですが、  
最低限であればこれだけで、描いて行くことができます。

その他、あった方が良い物は、

- ・ 筆洗器
- ・ 小皿
- ・ ペインティングナイフ
- ・ パレットナイフ
- ・ 油壺
- ・ イーゼル
- ・ テレピン
- ・ 乾性油
- ・ 完成用ニス
- ・ 碗陳

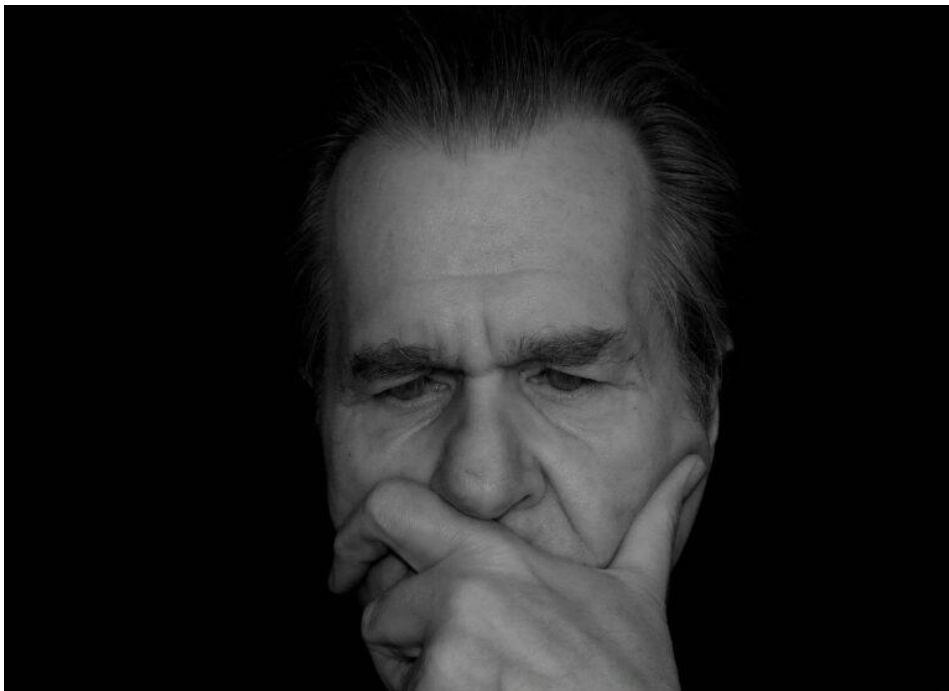
など、必要に応じて買ったせば良いと思います。

## ⑨油絵の基本的な描いて行き方



ここでは、油絵のオーソドックスな描き方を簡単に紹介します。

## ①描くものを決める



まずは、何を描くかを決めます。

実際にある物を描いても良いですし、

何か描きたい物の写真を用意して描いても大丈夫です。



## ②構図決め



描くものが決まったら、構図を決めていきます。

構図は絵に置いてはかなり大事な部分です。

注意する点としては、影の位置なども考慮して位置を決めないとバランスが悪くなってしまいます。

### ③下描き



鉛筆を使って下描きをしていきます。

下描きはだいたい位置を把握できる程度で十分です。

慣れてきたら省くこともできます。

複雑な絵などはできるだけやった方が良いでしょう。



#### ④おつゆ描き



次におつゆ描きをしていきます。

おつゆ描きとは、油絵の具にテレピンを混ぜて、シャバシャバの状態を描いて行くことです。

使う油絵の具の色は、バーントシェンナがおすすめです。

半透明の絵の具なので、濃ゆめに塗れば暗くなり、薄く塗れば明るくなります。

この工程では、暗い部分に多く絵の具を乗せるイメージで、形を取っていきます。

明るい所には、あまり絵具を乗せないイメージです。

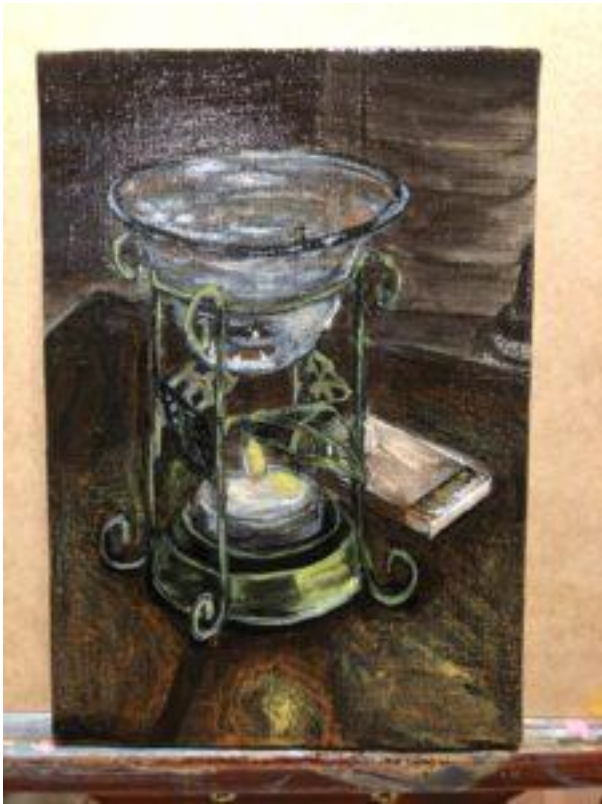
※因みにおつゆ描きは、ペインティングオイルで薄めても良いのですが、

ペインティングオイルを使うと乾燥までの時間が長くなって  
しまいます。

なので、テレピンを使った方が早く乾き、次の工程に早めに  
映れます。

だいたい 30 分程度乾かせば、上から乗せていくことができま  
す。

## ⑤固有色を置く



おつゆ描きが終わったら、固有色を置いていきます。  
ここで初めて、ペインティングオイルを使います。  
固有色とは、モノ本来が持っている色のことです。  
こういうと難しいですが、要はりんごだったら、  
赤ってことです。

暗部から明部へと描き進めていくのが基本です。

それと、同じ色、同じ明暗の部分は、同時進行で進めていく  
と効率的です。

暗→中→明→ハイライトの順番で描いていきます。

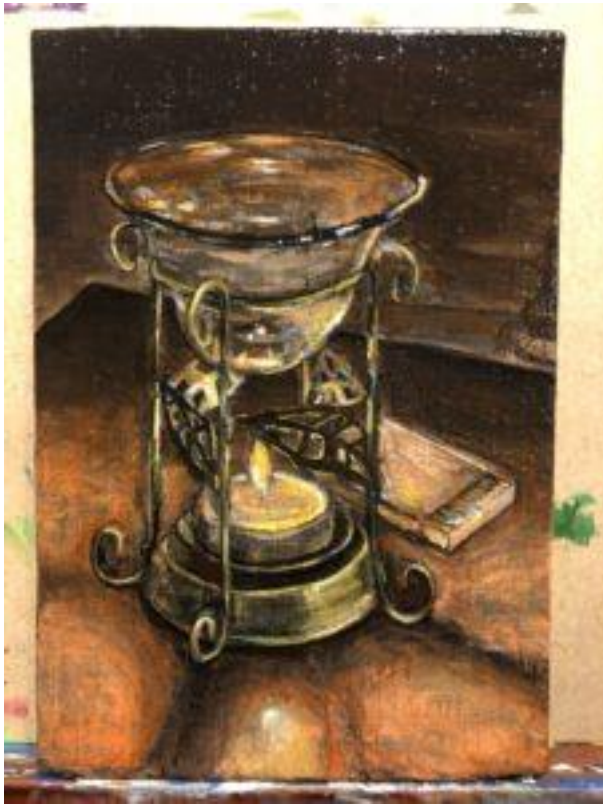
## ⑥中塗りで整える



形を削ったり整えながら、描いて行きます。

反射光なども、しっかり観察して描きます。

## ⑦仕上げ



細かい部分を整えたり、  
ハイライトを強調したりします。  
納得がいったら完成です。







## ⑧ニス掛け



作品が完成した後の保護でニス掛けをします。

ニス掛けは、薄塗りであれば、3か月ほど待ってから、行います。(厚塗りの場合は6か月後)

タブロースペシャルと言うものがあるんですが、それを使う場合は、

1週間ていどの乾燥で、ニス掛けすることもできます。

ただし、少し高価です。

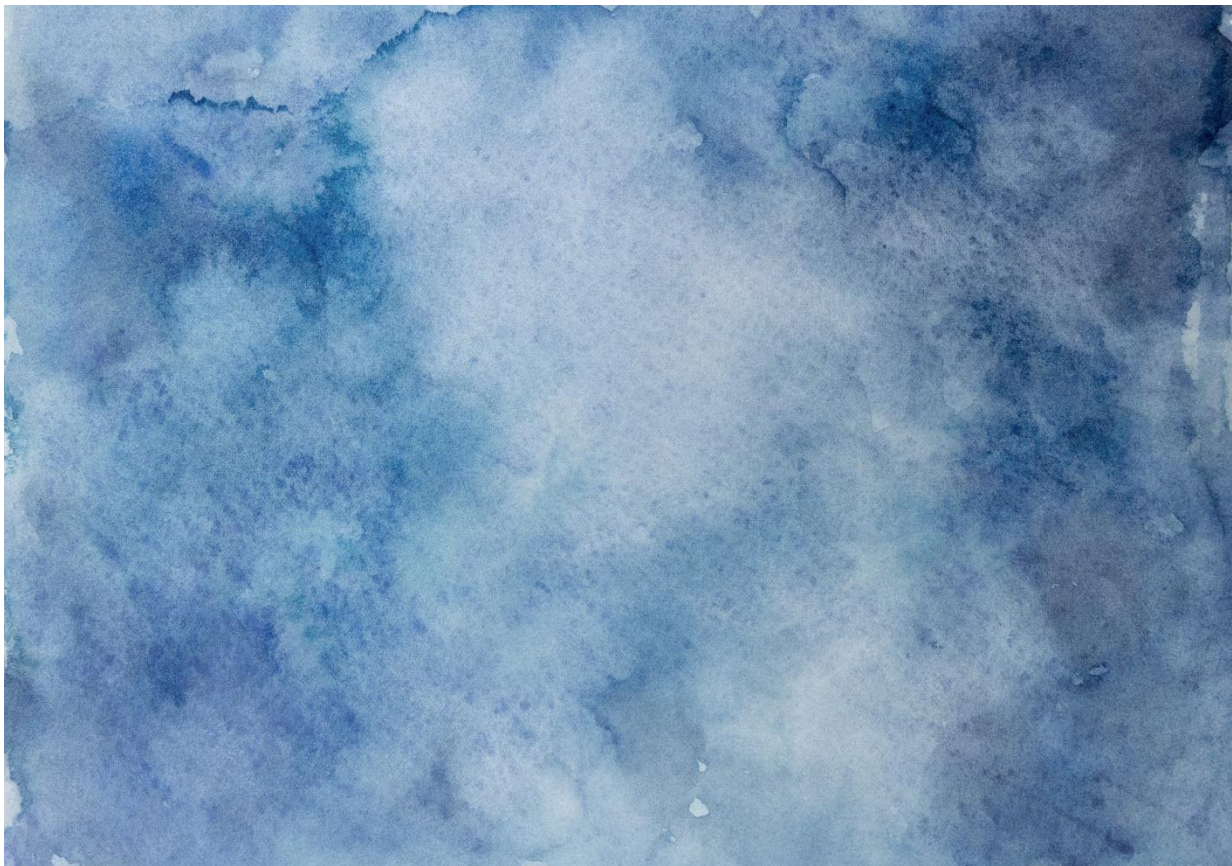
因みにやらないという選択肢もあります。

ニスをかけると、光沢が増すので嫌いな人はやらない人も居ます。

基本的には、画面の保護になるのでやっておくと良いです。

# ⑩油絵の技法 12 選 解説

## 油絵の技法① おつゆ描き



おつゆ描き油絵の具をテレピンに付けて、薄く描いていく方法です。

テレピンがない場合は、普通のペインティングオイルでも大丈夫です。

油絵の描き始めでよく使われます。

使う絵の具は、バーントシェンナがおすすめです。

バーントシェンナは、半透明な色なので、

明るいところは薄めて塗り、暗いところは濃ゆく塗るか重ね塗りすると暗くなります。

これでざっくりと立体と明暗をとらえて下書きしていきます。このように1色だけで、描いていくことを、**カマイユ**と言います。

バントシェンナ、バントアンバー等を使用した場合は、**ブルナイユ**と言い、

はちみつ色を使用した場合は、**シラージュ**。

緑色を使う場合は、**ヴェルダイユ**。

白黒の場合は、**グリザイユ**と言います。

次の項目では、一番有名な**グリザイユ**の説明をします。



## 油絵の技法② グリザイユ画法



カマイユで有名なのがこのグリザイユ画法です。

白黒で描き進めて、後から色を乗せていく手法のことです。

何と申すか、名前がかっこいいですよ。

なんとも中二病心をくすぐられます・・・。

デジタル絵で使われることが多くなっていますが、

元々は古典絵画の技法です。

使われ方は、デジタルでも、アナログでもほぼ同じです。

メリットとしては、明暗と色彩を分けて考えられることです。

まず白黒の段階では、デッサンに集中して、

明暗が出来上がったら、色を乗せていくという感じです。

上にのせる色は、透明色や半透明色を使います。

明暗やグラデーションは既にできているので、

基本的には上から色をベタ塗りするような感じになります。

明暗と色彩を同時にやろうとすると難しいので、初心者に向いていると言われます。

私の場合も部分的にグリザイユで描いてから色を付けていくことは多いです。

他のメリットとしては、立体感が出しやすいところだと思います。

油絵でグリザイユは、グレーの上に色を乗せていくので色が沈みやすいです。

あらかじめ、少し明るめのトーンで画面を構成しておくとうまくいきやすいでしょう。

デジタルでやる場合は、明暗を自由にいじれるので気にしなくても大丈夫です。

また、技法ではないのですが有色下地のことをインプリマトゥーラと言います。

インプリマトゥーラの上にカマイユをやっていくといった方法もあります。



## 油絵の技法③ グレーズ（グラッシ）



油絵といえばこの技法！というイメージです。

油絵の技術は600年前ファンエイクという画家によって確立されました。

その頃からこのグレーズという技術は使われてきました。

あまり聞きませんが、グラッシとも言うようです。

薄い色を重ねていき色に深みを出していきます。

油絵の具には、不透明色、半透明色、透明色の3つがあります。

基本的に透明色を使います。

グレースする際は、軟毛筆がおすすめです。

ナイロン、馬毛、タヌキ、セーブル、イタチ、コリンスキー等  
ですね。

因みに、アクリル絵の具でも同じようにこの技法は使えます。

#### 油絵の技法④ スカンプル技法



グレースと混同している人は結構多いのではないのでしょうか。  
グレースは透明色を使うのに対して、スカンプルは半透明の  
色を重ねます。



## 油絵の技法⑤ スフマート技法



境界ぼかしてはっきりとした輪郭線がでないようにして、ぼやけたように描く絵画技法です。

これが使われた絵として有名なのがレオナルドダヴィンチの作品「モナ・リザ」です。

油絵は乾きが遅い特性がありますので、ぼかしには向いています。

アクリル絵の具だと、乾くのが早いのでスピーディーにやる必要があります。

関係ないのですが、私はよく間違えてフスマートと言ってしまう ^ ^ ;

ちょっと恥ずかしいので皆さんは気を付けてくださいね。

## 油絵の技法⑥ インパスト技法



油絵の具を厚塗りし盛上がるようにして画面に絵具の凹凸を出す技法です。

多く油絵の具を使うので、硬い筆の豚毛やパレットナイフ、などが適しています。



画面上が立体的になりますので、光の当たり方や、見る角度によっても絵の印象が変わってきます。

元々油絵の技法ですが、モデリングペーストを使うとアクリル絵の具でも可能になります。

インパストは、私は気分転換にたまにやります。

たっぷり贅沢に絵具を載せるのは気持ちいいですよ。

## 油絵の技法⑦ ドリッピング技法



絵の具を直接キャンバスに垂らしたり、  
筆で飛び散らせたりすることで支持体に絵の具を付ける技法  
です。

筆と支持体が直接触れ合わない場合にこう言うようです。

油絵の抽象画でよく見かけます。

また、水彩画でもよく使われていますね。



写実的な絵にはあまり使われないイメージです。

使う場面は難しいですが、使いこなせば面白い表現ができる  
と思います。

## 油絵の技法⑧ ミクストメディア技法



2 種類以上の画材や技法を使用した作品や表現のことを言います。

ミクストメディアとみなされる最初の近代美術作品は、パブ

ロ・ピカソのコラージュ作品

「Still Life with Chair Caning (籐椅子 (とういす) のある静物画)」とされています。

Still Life with Chair Caning

現代アートでは使われることが多いです。

ミクストメディアで有名なのが「コラージュ」です。

雑誌や写真、新聞、布、木材などランダムに張り付けたような作品のことです。

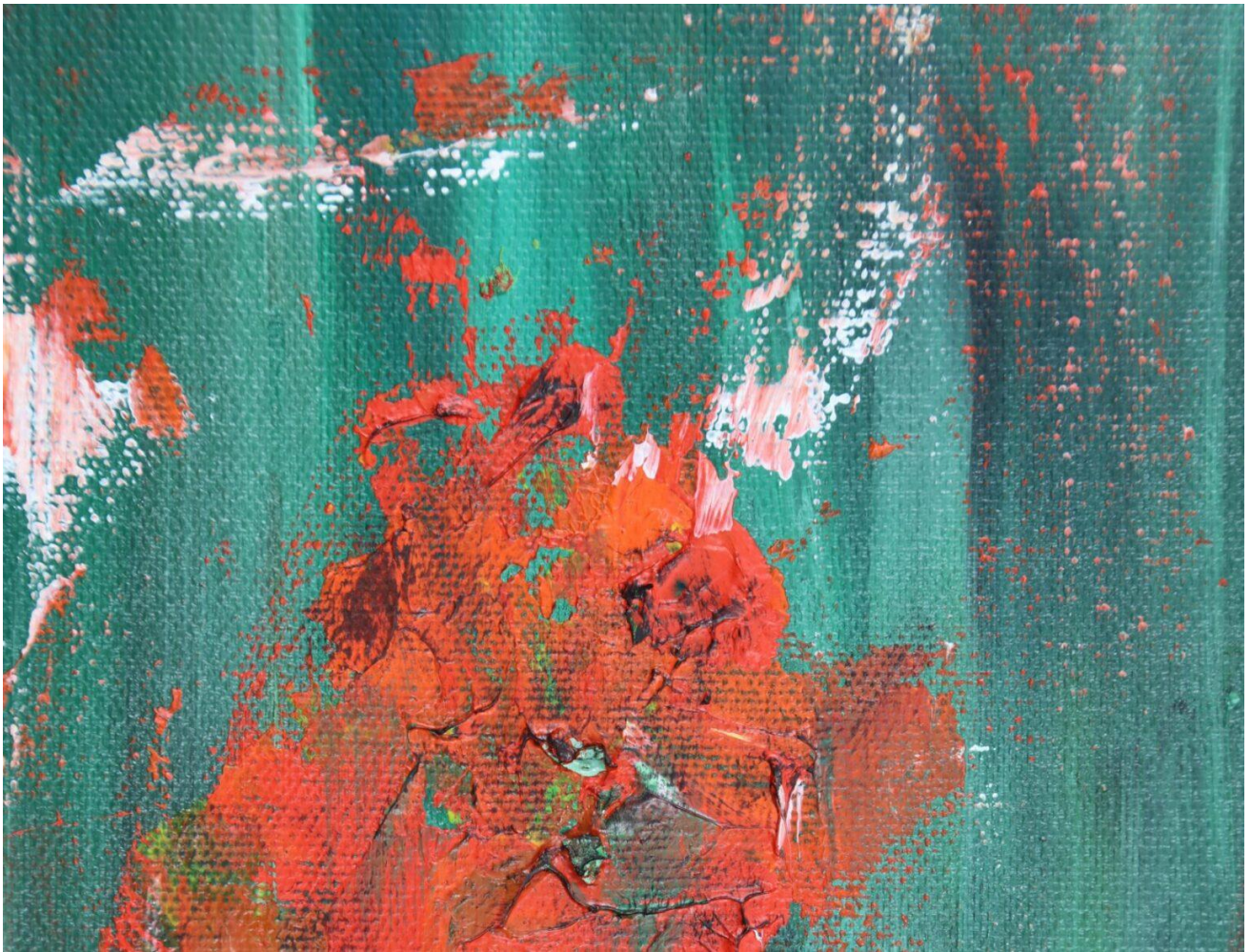
その他には、「デコパージュ」「アッサンブラージュ」「ファウンド・オブジェ」、

「オルタード・ブック」「ウェットメディアとドライメディア」といった技法があります。

ここでは油絵の技法を話がそれてきますので、割愛します。



## 油絵の技法⑨ ドライブラシ技法



ペインティングオイルをほとんど使用せず、油絵の具を少な目に付け、かすれた様に支持体に付ける技法のことです。

動物の毛を描く際や、髪の毛などを買う際にも見られます。

私の場合は、扇筆で使うことが多いです。

扇筆の先端だけに絵の具を付けてランダムに付けて、テクスチャーを作ったりします。

壁の汚れやシミを描いたりするときにも使用します。



## 油絵の技法⑩ スパッタリング技法



ドリップングと近い技法です。

豚毛などの筆を、指でしならせて弾いて絵具を支持体に付ける技法です。

歯ブラシと金網を用意してやることもできます。

室内などうかつにやると、思いがけないところに絵の具が飛んでいきますので注意しましょう。

子供から大人まで楽しめる技法だと思います。



## 油絵の技法⑪ ハッチング



細かく平行線を引き重ねていくことで、絵に重厚感を与えていく技法です。

クラスさせて線を引く場合は、クロスハッチングと言います。

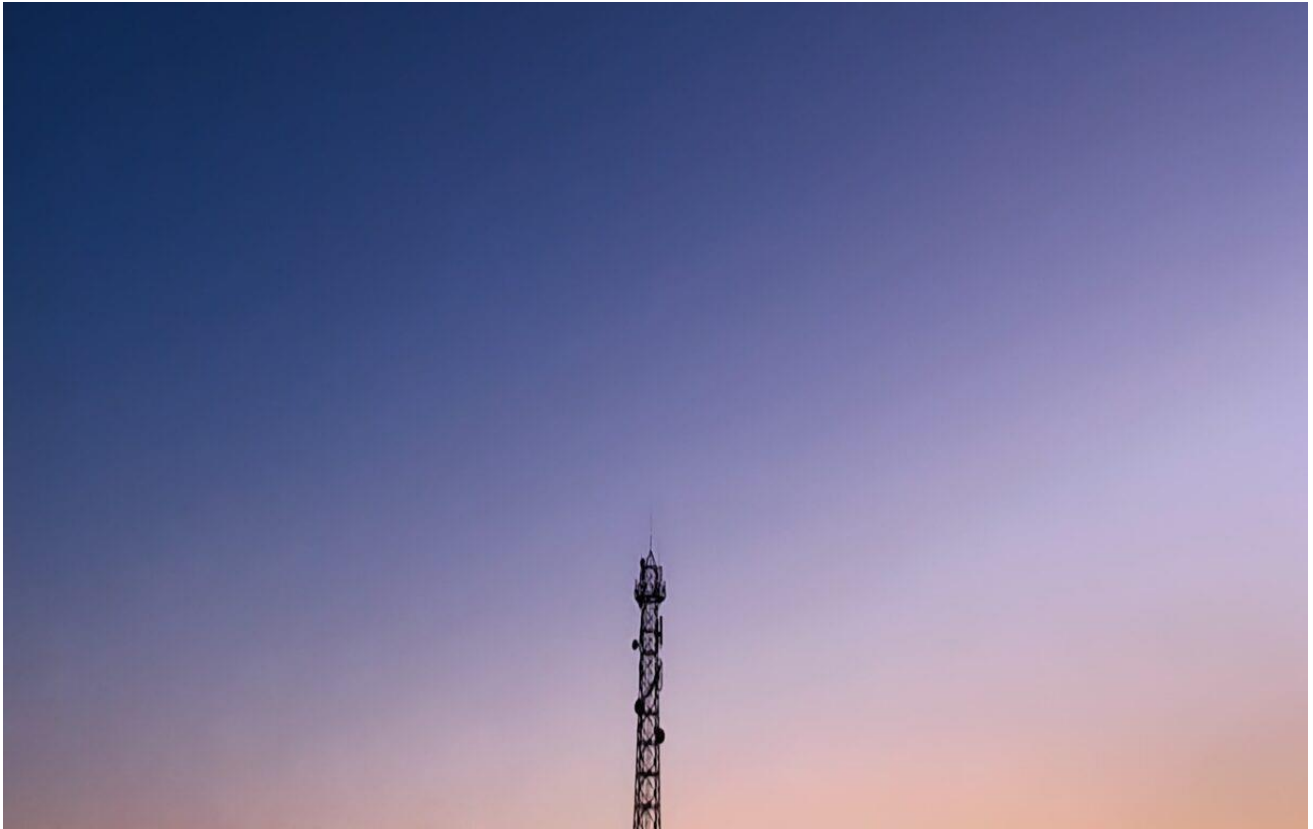
日本の白黒漫画にもよく使用されています。

デッサンでも使用しますね。

かなり作業的で、根気がいる手法だと思います。



## 油絵の技法⑫ グラデーション (ウェット・イン・ウェット)



技法と言っているのかわかりませんが、こちらも説明しておきます。

2つの色を置いて、その境目をぼかし、つなぎ目を自然にみせて、色を繋いでいくことです。

虹をイメージすると良いでしょう。

注意点としては、補色（色相環の反対にある色）をグラデーションするとうまくいきません。

補色同士を混ぜると、色が濁り汚くなってしまうからです。

色相環の隣の色、または近い色を使いましょう。

また、スフマートの説明でも書きましたが、

油絵は乾きが遅いのでグラデーションを作るのにも向いています。

アクリル絵の具だとグラデーションを作るのにコツが要ります。

## ⑪最後に

油絵のことをあれこれと、書いて行きました。

何か少しでも疑問が解決できたのであれば、嬉しいです。

ほとんどの人にとっては、子供の時に絵を描いて依頼、大人になってほとんど描いたことがない人がほとんどだと思います。

絵を描くことは、自分自身と向き合うきっかけになったり、気持ちが落ち着いたり、自己肯定感を上げたり、人に喜んでもらったりとなど、色々な良い面があります。

あなたにはあなたの絵を描くことの価値観を、  
見つけてみてくださいね。

また、ここで会えたのも何かの縁だと思いますので、  
今後もよろしくお願いします。

ふじゆう